

学びや

タイムスリップ

終戦後、日本に進駐していた連合国軍軍政部長はさまざまな教育改革を日本に指示し、中でも中等教育の改革はこれまでの制度を根本から改めるものでした。

戦前の小学校卒業後の進路は、男女別にさまざまに分岐する複雑型でした。例えば、進学を見据えた男子のエリートコースは旧制中学校、ノンエリートコースは高等小學校や青年學校、といった具合です。それが1947(昭和22)年度以降は、義務教育が15歳まで延長された上に、公立は男女共学になったのです。

【元小学校を転用したケース】
嘉菜中や柳池中(現京市立松原)など市の中心部に多いのが特徴です。この中の国民学校高等科(現一中から転用の壬生第一)は、準備期間は2ヵ月程しかなかったのです。教材や教員どころか、校舎の準独の学校になっていました。

【新設】
郊外の新制中学校のほとんどが該当します。当初は近くの小学校併設でのスタートが多く、しかも単独校舎が設置された木造のいわゆる「6・3校舎」(義務教育6・3制)にちなんだあだ名でした。その上、グラウンドの整備と設置は、生徒自らの手で進められた学校が多かったようです。(京都市学校歴史博物館 学芸員 和崎光太郎)

準備期間は実質2ヵ月

京都市では同年5月5日に新制中学校が一斉にスタートします。ただし、戦後の混乱期に新しく義務教育の学校を設置するのは、準備すらままならない状況でスタートしたので、

【元中等教育学校を転用したケース】
市立第二商業学校から転用の北野中、府立第五

【新設】
郊外の新制中学校のほとんどが該当します。当初は近くの小学校併設でのスタートが多く、しかも単独校舎が設置された木造のいわゆる「6・3校舎」(義務教育6・3制)にちなんだあだ名でした。その上、グラウンドの整備と設置は、生徒自らの手で進められた学校が多かったようです。



写真①、「新学校制度実施準備の案内」(1947年2月)



写真②、校門に複数の門標(市立第一中学校=旧制・市立松原商務学校=旧制・壬生中学校=新制、48年3月)

◆ 今回紹介した資料は、

学校歴史博物館(下京区)で開催中の企画展「戦争と学校 戦後70年をむかえて」で展示しています(水曜休館)。